

プログラム言語B		講義	教授 樽井 勇之
科目カテゴリー	経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23002203

1. 授業のねらい・概要

C 言語によりプログラミングの応用を学習し、高度な C プログラムが作成できるようになることがねらいである。

(1) C 言語のプログラムにより情報の可視化方法を、実習を通して修得する。

(2) 配列や多次元配列を学習し、配列を使ったアプリケーションを開発する。

(3) ポインタや構造体を使って、実用的なアプリケーションプログラムが作成できるようになる。

2. 授業の進め方

テキストの演習問題に基づいてプログラムを作成する。講義と実習中心の授業形式で進める。

3. 授業計画

1. ガイダンス 2. 数値計算 3. モンテカルロ法 4. 例外処理 5. ファイルへの書き出し 6. 情報の可視化 7. バイオリズム 8. プログラミング中間課題	9. 配列 10. 多次元配列 11. カレンダーの表示 12. 関数と配列 13. ポインタ・構造体 14. プログラミング期末課題（基礎） 15. プログラミング期末課題（応用）
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

プログラムを理解するため、パソコンを使ったプログラミングが1時間以上必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題を出題後にプログラミングのヒントを与え、授業時間終了前に模範解答を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

プログラムの動作原理やアルゴリズムの概念が理解できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

課題の成果物（60%）、定期試験の結果（40%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキスト：田原淳一郎・小林弘幸，「情報演習6 ステップ30 C言語ワークブック」，カットシステム

9. 受講上の留意事項

受講条件として基礎科目である「プログラム言語A」を単位修得済みであること。

演習を中心に進めるので必ず出席すること。操作や意味がわからないときには積極的に質問すること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。